

第1期中期計画期間中の重点項目の取組状況①

①「日本音楽研究専攻(仮称)の設置

- ⇒大学院音楽研究科修士課程に「日本音楽研究専攻」を設置（25年度）
（25～29年度に9名入学）
その他、音楽学部において管・打楽専攻に専攻細目としてサクソフォンを
新設（26年度）し、毎年2名の学生を受け入れている。

②「京都芸大キャリアアップセンター(仮称)」の設立

⇒「キャリアアップセンター」（現キャリアデザインセンター）開設（24年度）

- ・就職相談員をはじめ美術、音楽に関する芸術アドバイザーを配置し、在学生のみならず卒業生のキャリアサポートを実施
- ・就職希望者向けの企業説明会を開催する他、学生たちが様々な分野で活躍する卒業生の声を聴く場の提供、作家として活動中の卒業生をサポートする取組などに注力している。



作家として活動中の卒業生等の作品販売等を行う
「THE GIFT BOX」

第1期中期計画期間中の重点項目の取組状況②

③「京都芸大アーカイバルリサーチセンター(仮称)」の構想

⇒25年度 センター構想を策定

26年度 「芸術資源研究センター」設立

- ・設立以降、本学及び京都の芸術作品や各種資料等を芸術資源として包括的に捉え直して、将来の新たな芸術創造につなげることを目的に各種活動を展開。
- ・現在、多様な専門分野を持つ学内外の研究者により14の重点研究が推進されている他、シンポジウムやワークショップ等の開催を通して、アーカイブについての情報発信に努めている。

④作品展, 演奏会, 公開講座等の充実

⇒法人化後、学外連携によるものも含め、多数の展覧会、演奏会等を開催

【数値目標】 43事業(22年度) → 60事業(29年度)

【実施状況】

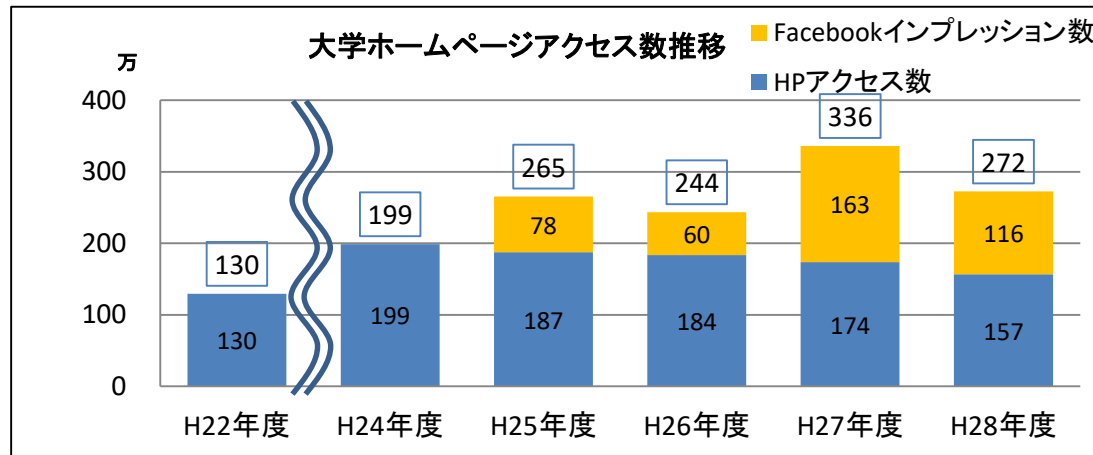
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
事業数	55	71	74	77	79

第1期中期計画期間中の重点項目の取組状況③

⑤広報機能の強化

⇒これまで以上に効果的な大学広報を行うための各種取組を実施

- ・広報業務経験者の採用（24年度～）
- ・SNS公式アカウント及び英語版HP開設（24年度～）
- ・大学オリジナルグッズの制作（27年度～）



※H25年度からFacebookインプレッション数も含めてカウント

法人化2年目以降,
数値目標をクリア

【数値目標】

HPアクセス数 200万件/年
(27年度から250万件/年)

⑥キャンパス移転検討と整備構想の策定

⇒「移転整備基本構想」（26年度）, 「移転整備基本計画」（28年度）の策定。

現在, 35年度中の移転実現に向けた移転整備工事設計業務に係る公募型プロポーザルを実施しており, 今年度中に基本設計に着手予定。

京都芸大の教育研究活動

公立大学法人化以降も、本学の特徴である少人数教育の利点を生かし、学びの質を高め、その幅を広げるための取組を進めている。

京都の人的・文化的資源を活用した取組



祇園祭大船鉾の音頭取りの衣装と裾幕のデザインを考案。裾幕は制作も担当した。

地域に根差した教育の実践



デザイン科の学生が西京区の魅力をイラスト等で伝える「西京三〇景」を制作

地元自治体等との連携による取組



洛西ニュータウン内市営住宅の子育て世帯向け住戸のリノベーションプランを考案

実践を重視した教育研究の推進



大学院修士課程の声楽専攻生を中心に、音楽学部・音楽研究科によるオペラ公演

他大学との交流・連携



大学間交流協定を締結した東京音楽大学との間で吹奏楽の交流演奏会を開催

海外アーティストとの交流



京都芸術センター等と連携し、アーティスト・イン・レジデンス事業等を実施

客員教授，特別講師による授業・講座

専門教育の充実を図るため，法人化後にスタートさせた客員教授制度（29年度：22名）の活用や，招聘講師制度により，毎年多くの著名な作家や研究者を招いた授業・講座を開講している。学生たちは，国内外の第一線で活躍する多彩なアーティスト等から，特別授業等を通じて直接指導を受ける貴重な機会を得ている。

多彩な客員教授



横尾忠則氏



金剛永謹氏

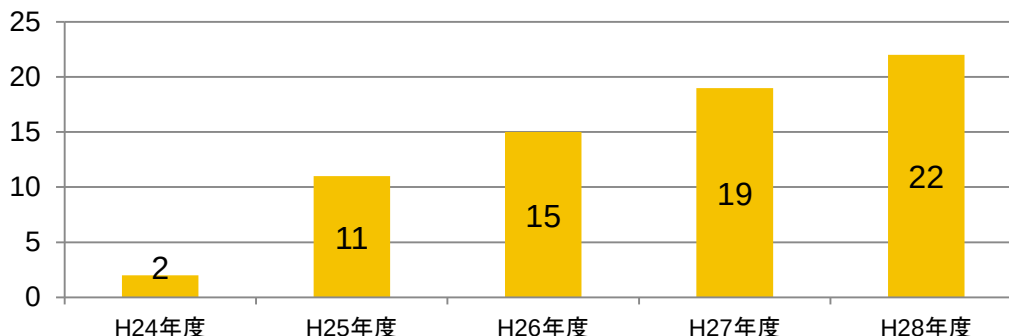


広上淳一氏



ハンス・エルク・シェンベルガー氏

客員教授任用人数の推移



森村泰昌客員教授による公開授業の様子

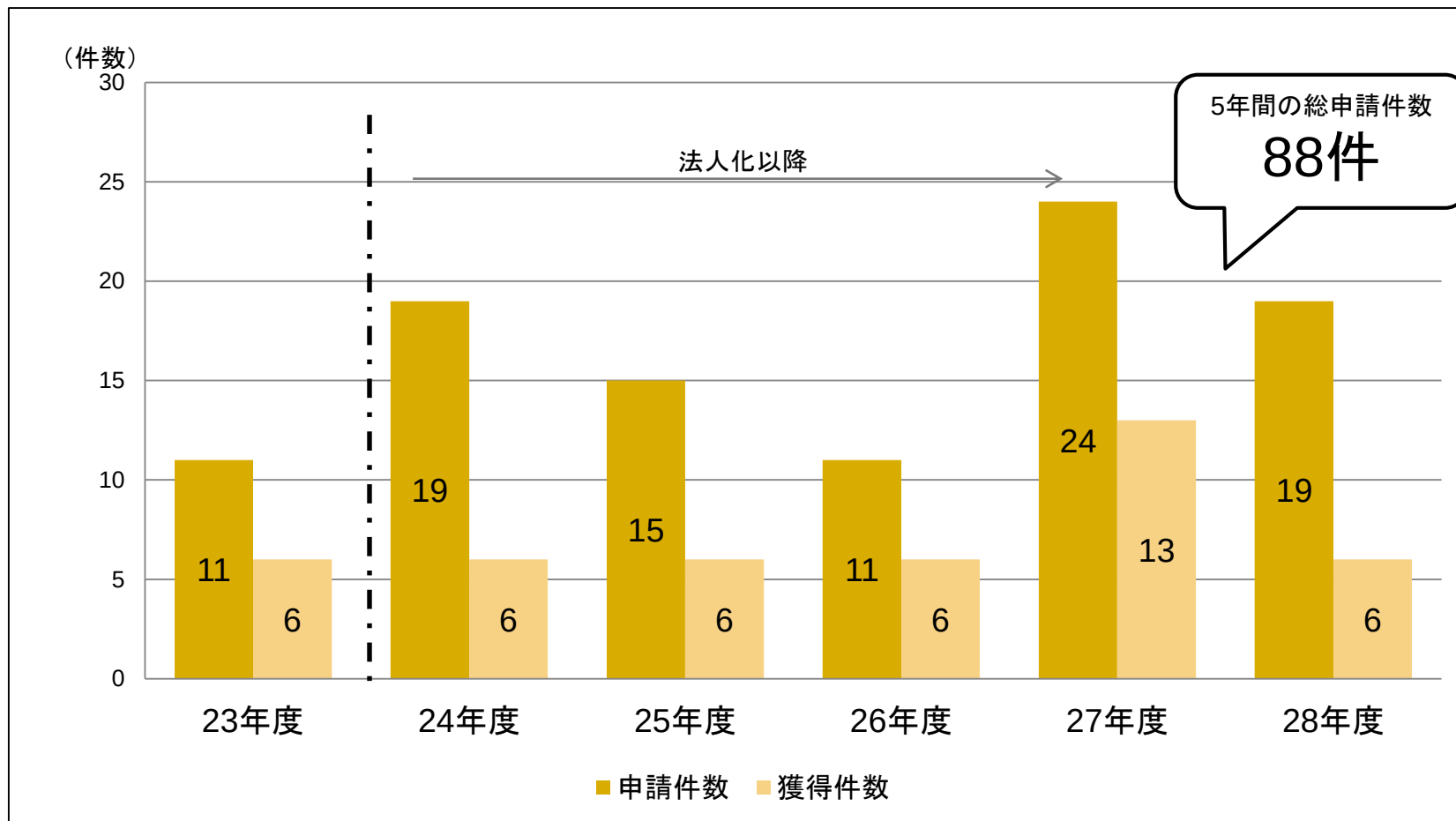


佐渡裕氏によるオーケストラ指導

財政基盤の強化に向けた取組 外部資金の獲得①（科研費）

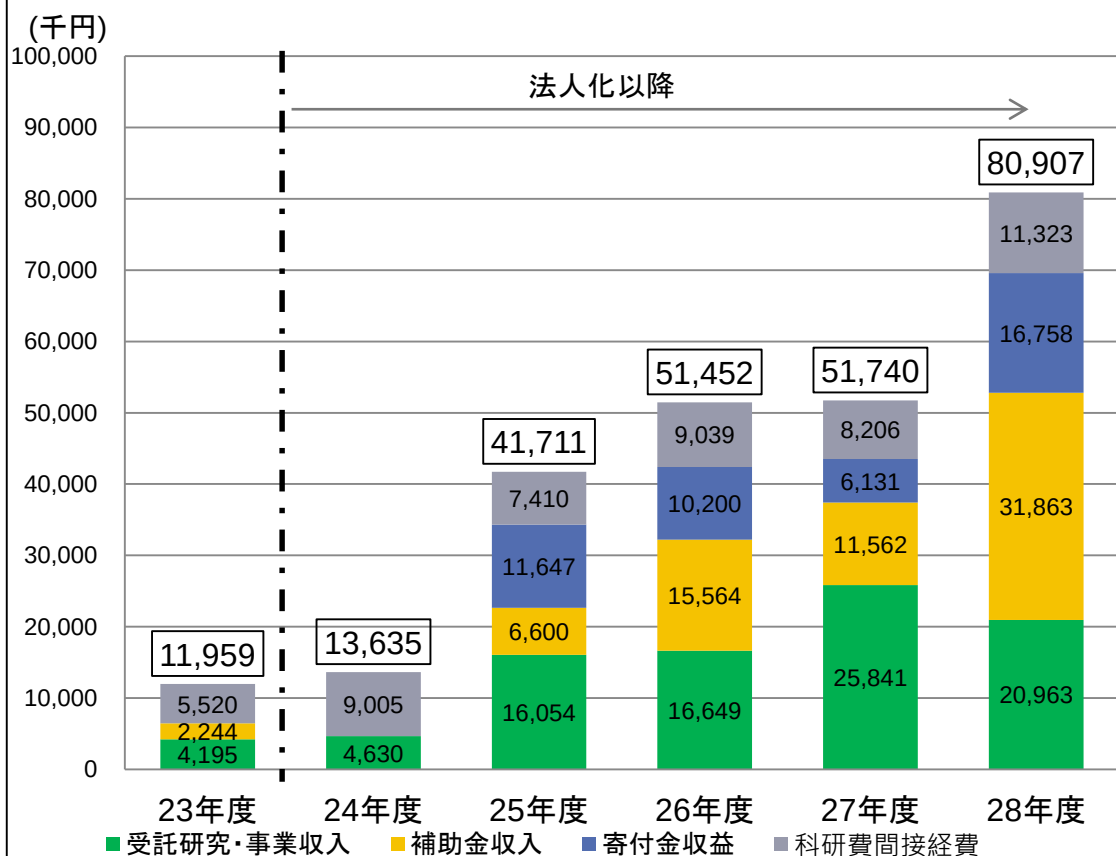
法人化以降、財政基盤の強化を図るため、教員による外部資金の獲得に向けた取組が活発化している。

現行中期計画期間6年間の設定数値目標(80件)は、計画5年目の28年度時点で達成している。



外部資金の獲得②（各種基金・財団，国の予算の活用状況）

芸術支援に取り組む各種財団や文化庁等の助成事業への応募に積極的に取り組むなど，外部資金の獲得に積極的に取り組んでいる。



カワイオカムラ「ムードホール」(於：ギャラリー@KCUA)
(平成28年度芸術文化振興基金助成事業)



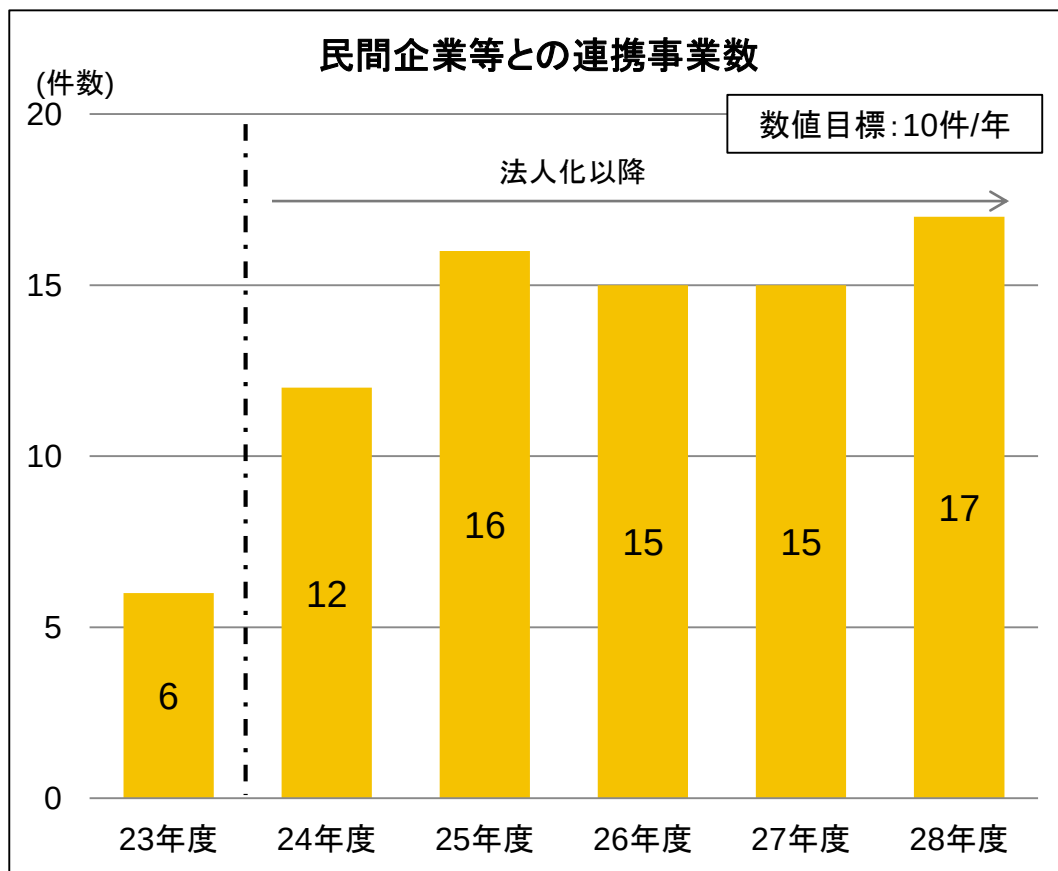
シンポジウム「過去の現在の未来」(平成27年度文化
庁メディア芸術連携促進事業)



「状況のアーキテクチャー」公開レクチャー(平成28
年度大学を活用した文化芸術推進事業)

民間企業等との連携による各種取組

法人化後、地元の民間企業等との連携による展覧会や演奏会の開催をはじめ、産官学連携による各種事業に積極的に取り組んでおり、数値目標を上回る実績を残している。



京都ライオンズクラブ協賛によるピアノフェスティバル



京都水族館と連携し、デザイン科学生がキャラクターをデザイン

事務部門の専門性の強化に向けた取組 大学プロパー職員の採用

法人化後、事務部門の専門性の強化を図るため、京都市からの派遣職員と置き換えを念頭にプロパー職員の採用を進めている。その他にも契約職員をはじめとする多様な任用形態の職員を採用するなど、本学の実情に即した人員体制の構築に努めている。

